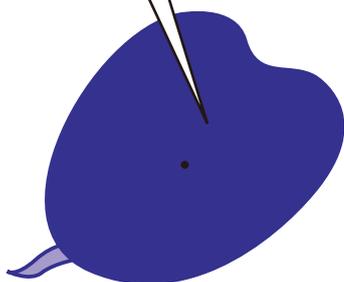


ワークの手順と解説

①自分の内面を見つめ、もし自分が種だとしたらどんな種になるかを描きます。

既存の概念にとらわれず、自由に表現することで右脳にスイッチが入ります。



②なぜこのような芽を描いたのか、その根拠を文章で説明します。

言語化することで、思考の整理ができ、自己理解が深まるとともに、自他への説得力が出てきます。

自分からみた「たね」のとくちょう
Characteristic of your seed.

③絵と文章が完成したら、チーム内で絵本を交換し合い、お互いの種について言葉で説明し合います。



他の人からみた「たね」の感想
Characteristic of your seed seen from others.

④チーム内の人から、絵や文の感想を記入してもらいます。

第三者からの感想は、自分では気づかない発見につながり、さらに自己探究が深くなります。

たね、はっけん！

We found a seed!

씨, 발견!

呵！发现了一颗种子。

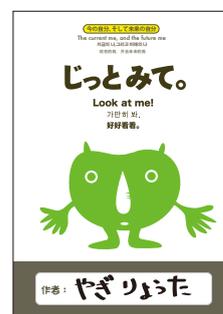
⑤こうして、芽、太陽、花、新しい種のページへ進み、同じように繰り返し、1冊の絵本を完成させます。

④チーム内の人から、絵や文の感想を記入してもらいます。
第三者からの感想は、自分では気づかない発見につながり、さらに自己探究が深くなります。

⑥全体の場で、自分の絵本を紹介します。

誰ひとつとして同じ絵のない絵本は、それぞれが持つオリジナリティの証となり、各個人の魅力が引き出された1冊となります。

自分自身にとっては、自己再確認、自己発見、そして希望や自信となり、第三者には、同じ思考への共感、異質な思考に対しては新しい世界観を知り、視野を広げるチャンスとなります。そして人間愛が芽生えたり、尊敬の念へと発展し、信頼関係への架け橋となっていきます。



世界でたったひとつの、自分の絵本が誕生します！
一人一人の豊かな人間性が詰まっています。